



 東京都産業労働局

1

## 令和 6 年度 本協議会関連活動実績

今年度は、全体会合 **3 回**、**2 件**のFS支援採択・分科会を実施

会議体	2024										2025		
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
全体会合	第1回 							第2回 			羽田水素普及イベント 	第3回 	
第一分科会 (都心型水素利活用体制構築に向けた検討分科会)						採択 	NTTデータ経営研究所様を中心に調査・検討					第1回 	第2回 
第二分科会 (空港内エリアにおける水素利活用検討分科会)						採択 	第1回 	第2回 	第3回 	日本空港ビルデング様を中心に調査・検討			

## 令和 7 年度

- ⇒ 全体会合を年間 2 回開催予定
- ⇒ 令和 7 年度も引き続き F S 等を実施する事業者を公募（4 月以降募集開始予定）
- ⇒ 公募事業の採択結果を踏まえ、新規分科会の立ち上げを検討

2

## 令和6年度 本協議会関連活動実績

全体会合では事例紹介・意見交換による課題検討を実施  
適宜ヒアリング・アンケートも活用し、事業化に向けた詳細な議論を推進

### 全体会合

- 年間3回開催し、水素関連事業の事例紹介・意見交換等を実施
- 全体会合で水素利活用に関する実証・事業の情報共有を行い、事業化に向けた動きを後押し
- **事業化に向けた課題などを中心に意見交換を行い、自治体・国からの支援や企業間連携など、対応策検討に繋がるインプット**を収集

### 分科会

- FS採択事業者を核とした2つの分科会を立ち上げ、議論を詳細化
- **分科会の場において、需要家等を巻き込みFS調査に関する議論を実施**

### 関連活動

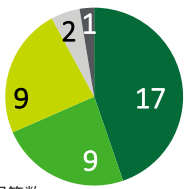
- 年間を通じて、協議会構成企業に対し、ヒアリング・アンケートを行い、課題・意見を吸い上げ
- 協議会構成企業以外にもヒアリングを実施。ヒアリングした企業等が新たに協議会へ参画。
- **分科会の立ち上げに際し、アンケート・ヒアリングを通じて設定テーマ等の意見を吸い上げ**

3

## 令和6年度 本協議会関連活動実績

全体会合では事例紹介・意見交換による課題検討を実施  
適宜ヒアリング・アンケートも活用し、事業化に向けた詳細な議論を推進

全体 会合	事例紹介 川崎重工業株式会社 液化水素サプライチェーン の商用化実証		意見交換 課題への対応策・検討方針の協議
	事例紹介 日本航空株式会社 GSE(地上支援器材)に おけるCO2削減の取組		<ul style="list-style-type: none"> <li>水素が化石燃料と同等まで価格低減するには課題が多く、<b>水素を利用した製品・サービスに対して、いくらまで価格転嫁ができるかがポイント</b></li> <li>事業者間連携に向けては、<b>圧力・純度といった内容について供給・需要双方の観点から広く情報交換</b>することが必要</li> </ul>

関連 活動	アンケート (第一回全体会合後) 協議会への期待の可視化	ヒアリング・ アンケート 課題感の吸い上げ
	 <p>単位：回答数 (複数応答、会社ごと)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ネットワーキングの機会</li> <li>■ 情報提供 (政策・規制・市場等)</li> <li>■ 支援策の提供</li> <li>■ その他</li> <li>■ 自社の取組の情報発信</li> </ul>	<p><b>分科会立ち上げに向けたヒアリング</b></p> <p>インフラ整備・法令対応に課題を感じているが、知見が無いため、一事業者として動きづらいつ感じている</p> <p>水素供給に向けた検討をしているが、<b>需要規模・収益性が見えてこない</b></p> <p><b>第二回全体会合後のアンケート</b></p> <p>水素製造や供給、利用設備導入によるコスト削減・効率化などのメリットや補助金が無ければ、特に中小企業への水素導入は進まないのでは</p> <p>空港臨海エリアの上流側だけでなく、<b>下流側も含めた全体の需要・圧力条件</b>などを加味して配管を設計する必要があるのでは</p> <p><b>情報が行き届いておらず各社お見合いをしているのでは</b>と考える。水素需要家は水素利用製品や水素価格が、製品メーカーは製品ユーザーのニーズが、水素供給者は水素需要の規模が把握しづらい状況にあるのでは</p>

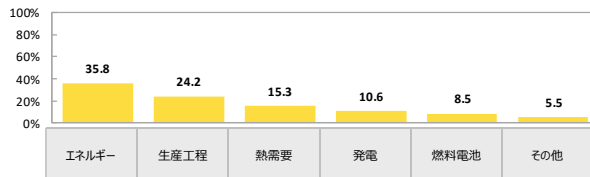
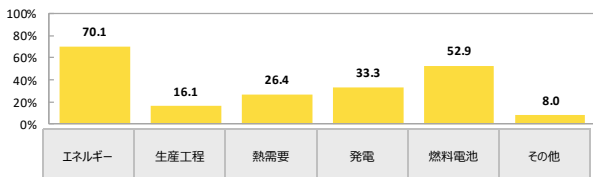
# 東京都が実施した事業者向け水素エネルギーPRイベントにおけるアンケート結果の報告

- ・ 事業者の関心や意向を調査するため、各イベントにてアンケートを実施
- ・ 「カーボンニュートラルに取り組む際の課題、都や他社と取り組みたい事項」として、規制緩和、需要拡大（及びそれに伴う、普及啓発・コスト削減）、海・船分野での利用、燃料電池普及やサプライチェーン実証、等の意見
- ・ 「水素エネルギー等について、関心のある項目、利用用途」は、両イベントともに「エネルギー」が最も高く、羽田みんなのみらい 水素エネルギー展では「燃料電池」、H2&FC EXPOでは「生産工程」
- ・ 「水素についてのフィージビリティスタディ協力意向」は、羽田イベントでは39.1%、H2&FC EXPOでは56.6%と半数超

2025/ 1 / 31 (金)  
 羽田みんなのみらい 水素エネルギー展 (主催: 東京都)  
 場所: 羽田イノベーションシティ  
 アンケート回答数: 87件

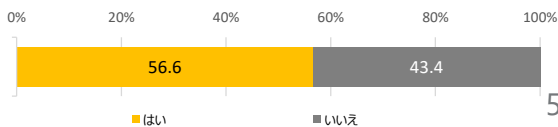
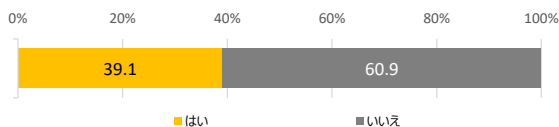
2025/ 2 / 19 (水) ~ 21 (金)  
 第23回 H2 & FC EXPO 春 国際 水素・燃料電池展  
 場所: 東京ビッグサイト、東京都産業労働局ブース  
 アンケート回答数: 452件

Q. 水素エネルギー等について関心のある項目、想定している利用用途 (単位: %)



注: 羽田みんなのみらい 水素エネルギー展では複数回答、H2&FC EXPOでは単一回答

Q. 水素についてのフィージビリティスタディ協力意向 (単位: %)

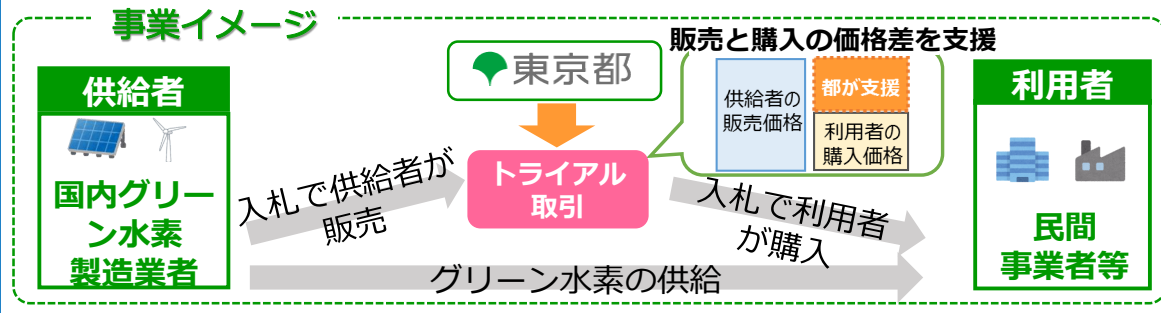


## 水素取引所の立ち上げに向けた取組①

- COP28において、世界有数の水素普及機関として知られるドイツのH2グローバル財団と連携し、水素取引所を立ち上げる構想を都知事が表明
- グリーン水素取引所の立ち上げに向けた制度設計の検討を進めるとともに、国産グリーン水素を用いた**トライアル取引**を実施し、得られた知見を検討内容に反映

### グリーン水素トライアル取引

- グリーン水素の取引機会創出、利用促進に向けた**トライアル取引**を実施
- 販売・購入価格をそれぞれ入札で取り決める**ダブルオークション**方式を試行し、都の支援により販売と購入の価格差を解消



トライアル取引の結果

➤ 令和6年12月に市場形式の取引としては世界初の取組として入札を実施

(1) 供給側落札単価

入札実施区分	入札者数	落札単価
各コース共通	1者	300円/Nm <sup>3</sup>

(2) 利用側落札単価

入札実施区分	入札者数	落札単価
①トレーラー輸送コース	2者	89円/Nm <sup>3</sup>
②カードル輸送コース	2者	230円/Nm <sup>3</sup>

(3) 落札量

①トレーラー輸送コース	期間中週2回輸送
②カードル輸送コース	期間中計10回輸送

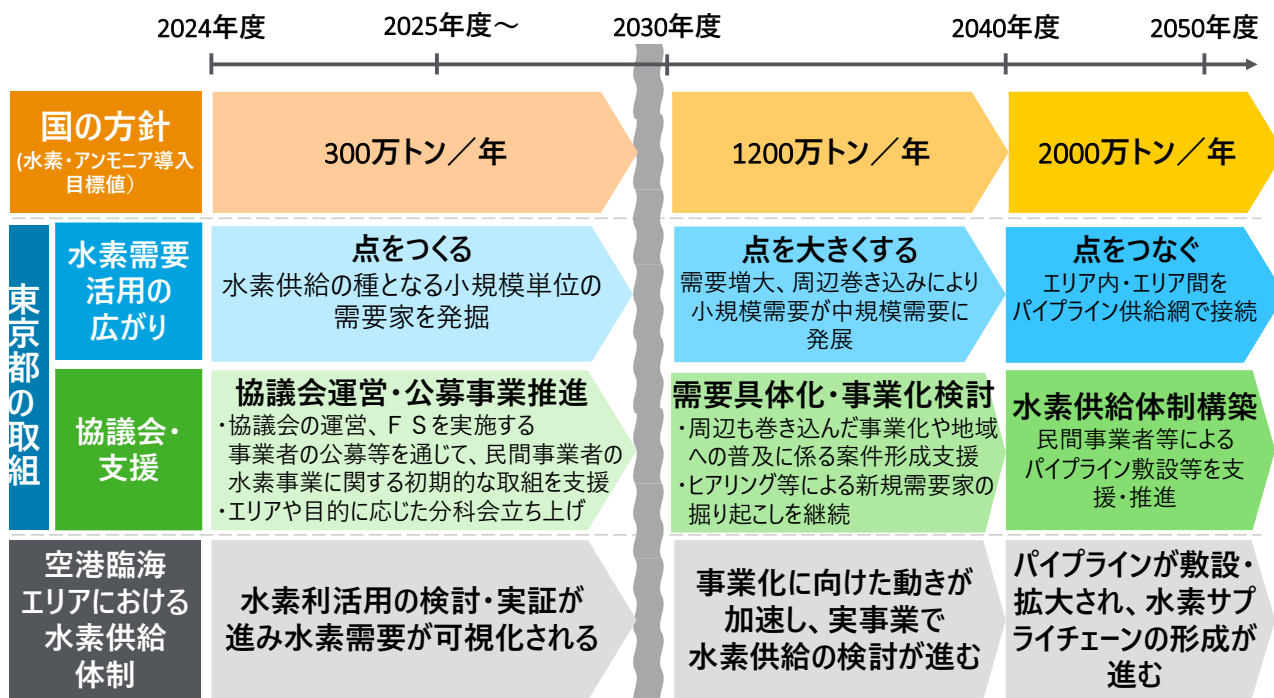
事業紹介記事：東証マネ部 !!



<https://money-bureau-jpx.com/news/article058198/>

2050年に向けたロードマップイメージ

来年度も分科会の立上げ・事業化支援を継続し、水素SCの将来絵姿・ロードマップの策定に反映していくことで、パイプラインを含めた水素供給体制構築の実現性を高めていく



基本コンセプト

巨大な地下空間を有する東京の特性を生かし、地下インフラを最大限に活用



令和7年度 東京都の水素関連事業①

令和7年度の水素関連事業予算は、今年度に引き続き**200億円**規模  
(令和7年度 東京都の予算案：東京都財務局HPより抜粋)

■ 水素エネルギーの社会実装を加速

⑦181億円 (⑥177億円)

➢ グリーン水素の製造・利活用事業【産労】

⑦24億円 (⑥30億円)

大田区京浜島にて都内初となる大規模グリーン水素製造施設を整備し、1基目の水電解装置を先行稼働

➢ 中央防波堤埋立地におけるグリーン水素の製造・利活用事業【産労】

⑦1億円 (⑥3億円)

中央防波堤埋立地にて太陽光発電を活用したグリーン水素製造施設整備に向け、基本設計等に着手

➢ 水素の社会実装化に向けた国際連携推進事業【産労】

⑦5億円 (⑥2億円)

水素国際会議の開催による参加都市等との連携強化や、水素の社会実装化に向けた合意書等を締結した都市との連携事業を実施することにより、国際サプライチェーン構築や技術開発に向けた取組を推進

➢ **パイプラインを含めた水素供給体制構築事業【産労】**

⑦2億円 (⑥2億円)

水素パイプライン供給体制の構築に向け検討協議会の開催のほか、事業者の実現可能性調査を支援

**新** ▶ **水素モビリティ・ステーション普及加速化総合支援事業【産労】** ⑦2億円（新規）

水素モビリティの需要創出やステーション事業者とのマッチング等の一体的支援により、水素モビリティの普及や水素ステーションの整備を促進

▶ **中小企業等への水素ステーション導入に向けた支援事業【産労】** ⑦1億円（⑥0.1億円）

中小事業者による整備を促進するため、水素ステーション導入に向けた手続の支援など経営面と技術面において伴走型で支援

▶ **水素ステーション設備等導入促進事業【産労】** ⑦4億円（⑥24億円）

水素ステーションの整備費及び運営費等の補助について、グリーン水素の導入に向けた太陽光発電設備や水電解装置の設置費用等の支援、中小事業者に対する基本設計費や計画外修繕費の支援など、補助内容を拡充

▶ **燃料電池バス・タクシー導入促進事業【産労】** ⑦0.1億円（⑥6百万円）

▶ **燃料電池等トラック実装支援事業【産労】** ⑦57億円（⑥42億円）

導入費・燃料費に対する補助を拡充し、水素需要と水素インフラ整備の好循環を創出

**拡充内容**

■ **バス・タクシー**

- ・ F Cタクシーを補助対象に追加し架装費を含む導入費を支援  
【上限】370万円
- ・ 一定台数以上の導入や水素ステーションの敷地内整備といった条件を満たした場合は補助を上乗せ  
【上限】バス2,000万円、タクシー240万円
- ・ F CタクシーはL Pガスとの燃料費差についても支援  
【上限】130万円/台・年

■ **トラック**

- ・ 水素エンジントラックへの改造費を新たに支援
- ・ 一定台数以上の導入や水素ステーションの敷地内整備といった条件を満たした場合は補助を上乗せ

[モデルケース]

F Cタクシー  
(価格860万円)

都補助(上乗せ)  
上限240万円

事業者負担  
240万円

都補助  
(基本)  
370万円

国補助  
約250万円

条件を満たす場合



▶ **環境配慮型船舶の導入【建設・港湾】** ⑦20億円（⑥1億円）

都が保有する指揮艇について、更新のタイミングに合わせて、水素エネルギーなどを使用する環境配慮型船舶の導入に向けて、船舶の建造や燃料供給設備等の工事を実施

▶ **グリーン水素の活用事業【産労】** ⑦1億円（⑥2億円）

グリーン水素本格活用を目指し、都有施設等で活用して広くPRするほか、東京都産グリーン水素と森ヶ崎水再生センターのバイオマス由来のCO<sub>2</sub>からグリーンメタンのトライアル製造を実施

**新** ▶ **グリーン水素の産業利用促進事業【産労】** ⑦0.8億円（新規）

化粧品等化学分野で東京都産グリーン水素を原料として利用するパイロット事業を実施し、取組や成果を発信するほか、肥料製造等の分野での利用可能性を調査

▶ **グリーン水素取引推進事業【産労】** ⑦4億円（⑥3億円）

水素需給等に係る調査検討やトライアル取引を実施するとともに、グリーン水素取引所の詳細な制度設計を実施

など

## 令和6年度 公募事業概要

公表	令和6年6月24日
予算額	1億536万円
事業対象期間	協定締結後～令和7年3月
審査会	令和6年8月1日
審査結果通知	令和6年8月21日
採択事業数	2事業
公募対象事業	空港臨海部における2050年の水素活用に向けたパイプライン等による大規模な水素供給、水素利用体制の整備に関するフジビリティスタディ（実現可能性調査）等

今年度の公募内容を踏まえ、以下のとおり事業を**拡充**して引き続き事業者によるF S等を支援

### 令和7年度

- F S、F E E Dまで範囲を拡大
- 2か年のF Sも支援の対象に
- 予算規模や応募件数増に対応

詳細は、4月以降に東京都HP等で公表予定